

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

障害認定を受けない難聴者の合理的配慮の実態と課題の調査に関する研究

研究分担者 東京医科大学・耳鼻咽喉科頭頸部外科・講師 白井 杏湖

研究要旨

企業・当事者へのアンケート調査を通じて、非障害認定難聴者が直面する課題を明らかにし、求められる合理的配慮を把握する。多角的に実態を解明し、今後の政策提言や企業向けガイドライン策定につなげる。

A. 研究目的

障害認定を受けない軽度～中等度難聴、片耳難聴、聴覚情報処理障害などの「非障害認定難聴者」を対象とし、彼らが職場において直面する課題と、求められる合理的配慮の現状を定量的・定性的に把握することを目的とする。企業・団体へのアンケート調査、当事者へのアンケート調査、国内外の文献レビューを通じて、多角的に実態を明らかにし、今後の政策提言や企業向けガイドライン策定につなげる。

B. 研究方法

チーム協議により調査票を作成し、Webフォームを用いたオンライン調査（調査会社に委託）にて企業アンケート、当事者アンケートを行う。結果分析し、報告書を作成し、広く一般に公開し、成果の普及と実装支援を図る。

（倫理面への配慮）

匿名加工情報を作成する。電子形式の説明書を作成し、同意しなければアンケートに進めない形とし、個人情報保護およびインフォームドコンセントに手続きを強化した。

C. 研究結果

計画通り、協議を重ね調査票を作成しアンケートを行い、結果を解析し、結果解釈においても協議した。市民公開講座としてパネルディスカッションで成果を公表し、参加者とも質疑応答やディスカッションを行った。

D. 考察

アンケートでの実態把握にとどまらず、結果公表時には、アンケート非回答者も参加し、研究結果をもとに当事者および企業の立場の双方から、対象者に対する合理的な変更・調整について議論できたことで、結果の解釈を深めることができた。

E. 結論

、直面する課題および解決策には個別対応が必要なものの、合理的な調整のために必要な基礎知識として本研究結果が役に立ち、相互理解のベースラインを提供することができた。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし